



BOX ART

Plastic Models and Japan's Postwar Culture



AFV、飛行機、船、スーパーカーからSF、ロボットまで…、
僕らの夢と憧れをのせて、日本のプラモデルは今年誕生50年。

2008 9/20 SAT > 11/3 MON

©TAMIYA ©Hasegawa ©AOSHIMA BUNKA KYOUZAI ©BANDAI TM and ©1994,1999 and 2006 ITC Entertainment Group Limited THUNDERBIRDS is a Gerry Anderson Production Licensed by GeneRal V Century

ATV 開局40周年記念

プラモデルパッケージ原画と

戦後の日本文化



Box Art - Plastic Models and Japan's Postwar Culture

■休館日:9月22日(月)、10月14日(火)、10月27日(月) ■開館時間:9:30~17:00(入館は16:30まで) ※ただし9/20~9/30は9:00~18:00(入館は17:30まで)
■主催:株式会社青森テレビ ■共催:青森県立美術館 ■後援:青森県教育委員会、青森市教育委員会、東奥日報社、陸奥新報社、デーリー東北新聞社、河北新報青森総局、NHK青森放送局、エフエム青森、青森ケーブルテレビ
■協力:株式会社タミヤ、株式会社ハセガワ、株式会社アオシマ文化教材社、株式会社バンダイ、日本プラモデル工業協同組合、ロックウェーブ、有限会社工藤模型

■特別協賛: SA Art Gallery ■協賛:青森オフセット印刷株式会社、株式会社ホンダ四輪販売北東北、トヨタカラー青森株式会社、H.F.G(huematsumu) ■企画:工藤健志(青森県立美術館学芸員)、村上敬(静岡県立美術館学芸員) ■企画協力:モマ・コンテンツポラリ

■観覧料:○ボックスアート展+アレコ 一般 1300円(1000円) ・大学生・高校生 800円(500円) ・中学生・小学生 500円(300円)
○ボックスアート展+高設展 一般 1700円(1400円) ・大学生・高校生 1100円(800円) ・中学生・小学生 600円(400円)
※1円未満の端切り及び20名以上の団体料金 ※心身に障りがある方と付き添い1名は無料(入館の際に証明できるものを提示ください)

■前売券販売所:県内サークルKサンクス、JTB東北・トラブランド青森県内各店、サンロード青森、さくら野吉商店(青森店・弘前店・八戸店)、成田本店しんまち店
BF、ELMインフォメーション、日弘楽器、三春屋、ラピア長崎屋、むつ松木屋、県内模型店等(青森市:青森ワールド模型、工藤模型、サカタ模型、弘前市:ニシムラ模
型 八戸市:ミウラ電波模型 五所川原市:模型クラブ 三沢市:サルビア むつ市:旅館とびない本館 おいらせ町:コムカイ模型)、青森県立美術館ミュージア
ムショップ ※9月19日(金)まで発売

■(会員特別割引)
受付で会員証を提示してください。
JAF 左記の会員は割引いたします。

青森県立美術館

AOMORI MUSEUM OF ART



タミヤ 1/35戦車シリーズ(シングル) ドイツ パンサータンク 1961 小松崎 茂

ATV開局40周年記念

プラモデルパッケージ原画と戦後の日本文化



Box Art - Plastic Models and Japan's Postwar Culture

戦車、飛行機、船、ロボット…、夢や憧れを形にして所有できるプラモデルは、1960年代の高度成長期に多くの子どもたちの支持を集め、その後工業製品としての進化をみせながら、今年日本で誕生50年を迎えました。ワクワクしながらパーツを組み立て形にしていく喜びは、プラモデルというホビーならではの楽しさと言えます。

そのキットの「顔」となるのが、ボックスアート(箱絵)です。消費者の購買欲を高めることを目的に描かれたボックスアートは、パッケージの装飾という役割を大きく超え、工作の過程で完成形を想起するための「資料」として、あるいはプラモデルを手にして空想の世界に遊ぶための物語を提供する「素材」として、人気を博します。

初期プラモデルのボックスアートは、戦時中に流布した視覚イメージを受け継ぎ、迫力ある劇的な様子が描かれ、多くの人々を魅了しましたが、特撮映画や劇画、アニメと並んで、そこには戦後の大衆文化の「主流」が示されています。そして、プラモデルを受容する層の意識の変化とともに様式を大きく展開させるなど、戦後の社会性や人々の精神史を検証する上でも注目すべき絵画と言えます。

本展は、戦時下の視覚イメージと、学校教材として活用された木製模型という2つのジャンルが、戦後どのような経緯でプラモデルという製品になっていったのかを様々な資料によって紹介するとともに、プラモデル草創期から現在に至るまでに送り出された時代を代表するプラモデルのボックスアート約160点の原画を展示することで、プラモデルと日本文化の関係を多角的に考察する企画です。あわせて懐かしいプラモデルの数々や、国内を代表するモデラーによるジオラマ作品も展示するなど、プラモデルの歴史を総体的に振り返ります。

さらに併設企画として、近年バンダイから発見された小松崎茂の貴重な原画も多数公開。サンダーバードやウルトラマン、仮面ライダー、マジンガーZといった人気番組のプラモデル、玩具のパッケージを飾った40点の作品によって、1970年代を中心とした小松崎茂の仕事を紹介します。

プラモデルというジャンルをとおして戦後日本文化の歩みを一望できる本展を、心ゆくまでお楽しみください。

山田卓司、金子辰也、島脇秀樹ら有名モデラーのジオラマも多数展示!!



ジオラマ:「大和」2006 島脇秀樹



©石森プロ・東映

併設企画 バンダイから発見された小松崎茂の原画約40点を本邦初公開!

「発掘された小松崎茂 ~1970年代のパッケージ原画を中心に」

■特別協力:株式会社バンダイ、昭和ロマン館、株式会社トイズワークス、西村祐次(M1号) ■企画協力:テクノプロ株式会社 ※観覧料はボックスアート展に含まれます。



アクセス

- JR青森駅から車で約20分
- 青森空港から車で約20分
- 東北縦貫自動車道青森ICから車で約5分
- 市営バス青森駅前2番バス停から免許センター行き「県立美術館前」下車(所要時間約20分)
- 「三内丸山遺跡前」下車(所要時間約25分、下車徒歩5分)
- 「総合運動公園前」下車(所要時間約15分、下車徒歩10分)

お問い合わせ先

- 青森テレビ営業局営業推進部
〒030-8686 青森市松森1-4-8 Tel.017-741-2238
http://www.atv.jp/
- 青森県立美術館
〒030-0021 青森市安田字近野185 Tel.017-783-3000
http://www.aomori-museum.jp Fax.017-783-5244

関連イベント ※すべて参加無料ですが、展覧会チケットが必要となります。 ※詳しくは美術館ホームページをご覧ください。

- 「戦後日本文化とプラモデル」 講師: 田宮俊作 (株式会社タミヤ代表取締役会長)
9月21日(日) 14:00~15:30 会場:美術館シアター 定員:200名(当日先着順)
- 「プラモデル黎明期とハセガワ」 講師: 長谷川勝人 (株式会社ハセガワ常務取締役)
10月5日(日) 14:00~15:30 会場:美術館シアター 定員:200名(当日先着順)
- 「良質なボックスアートに出会えた少年たちは幸せである」
講師: 加藤賢 (元バンダイ「模型情報」編集長、株式会社キャラアニ代表取締役社長)
10月19日(日) 14:00~15:30 会場:美術館シアター 定員:200名(当日先着順)
- 「[航研機]復元ものがたり」 講師: 大柳繁造 (青森県立三沢航空科学館館長)
10月26日(日) 14:00~15:30 会場:美術館シアター 定員:200名(当日先着順)
- 「戦後日本のサブカルチャー ~文化の本流どこにあり?」 講師: 工藤健志 (青森県立美術館学芸員)
11月2日(日) 14:00~15:30 会場:美術館シアター 定員:200名(当日先着順)
- ギャラリートーク 9月23日(火・祝)、10月13日(月・祝)、26日(日)、11月3日(月・祝)
各14:00~ 会場:展示室内

ワークショップ:「ボックスアートの出来るまで」 講師: 開田裕治(イラストレーター)

ボックスアートはどのように生み出されるのか、第一線で活躍するイラストレーター開田裕治さんが、そのプロセスを解説します。その体験をもとに、君もボックスアートを描いてみよう!

9月20日(土) 13:30~17:00 会場:ワークショップA、展示室A 定員:20名(要申込)

ワークショップ:「ダンガンレーサー青森カップ」

ダンガンレーサーを組み立ててレースをしよう。目指せ優勝!

10月12日(日) 13:30~16:30 定員:30名(要申込)

講師: 島脇秀樹(プロモデラー)、横山一敬(青森テレビ営業局局長)

※各ワークショップは、9月1日より電話もしくはファックスにて美術館までお申込みください。先着順で受け付け、定員になり次第締め切らせていただきます。なお中学生以下の参加者は保護者の付き添いが必要です。

シンポジウム:「ボックスアート展とは何か」

本展企画者が展覧会のコンセプトや見方についてお話しします。

9月20日(土) 10:00~11:00 会場:展示室A

パネラー: 村上敬(静岡県立美術館学芸員)、工藤健志(青森県立美術館学芸員) モデレーター: 中村光信(モマ・コンテンツポラリー)